

① 有限会社仲田種苗園 〈福島県石川町〉

野の花マットで都会にオアシス 地域資源と使い易さで付加価値を高める



野の花マットが利用された JR 大崎駅前 Think-Park

癒しをもたらす野の花マット

福島県石川町にある（有）仲田種苗園は 1959 年の創業以来、50 年間在来種植物生産にこだわってきた。同園では、10～15 種類の野草を組み合わせた「野の花マット」を新たに開発し、東京を中心に都会のオアシスとして注目を集めている。

「野の花マット」は、日本人の心の故郷ともいえる里山の原風景がモデル。首都圏と植生が共通する福島の在来野草を長年収集栽培してきた独自のシードバンク機能を活用して、一般的な緑化マットで見かける芝やセダムなどによる単一緑化ではなく、自然に近い

形で多種類を寄せ植えしているところに最大の特徴を持つ。それによって、四季を通じて野花が楽しめ、見る人々に癒しと安らぎを与えてくれるのである。さらに、複数種類の野草が組み合わさった「野の花マット」は、緑化による二酸化炭素の削減・ヒートアイランドの抑止に加え、さまざまな昆虫の住処となるので、生物多様性への効果も確認されている。

「野の花マット」のもう一つの特徴は、その施工のし易さにある。一般に緑化マットは、椰子ガラなどに芝を植え付け緑化する。一方、「野の花マット」は野草の根そのものがマット機能を果たしている

ため、緑化したい場所に直接マットを敷き詰めることが可能で、施工後の生育も良好である。

手軽に野原のような風景を楽しめるとあって、緑地の不足する都心を中心に着々と販売数を伸ばしており、JR 大崎駅前の「Think Park」や東京工業大学などにも導入されている。2009 年には、eco japan cup の「JP 地域共存ビジネス賞」を受賞した。

製品開発から収益化まで

同社は、もともと公共工事を中心に在来種の苗木や植木を提供してきた。野草は、仲田社長の母親が 40 年かけて趣味で育成してきたコレクション。この地域のシードバンク機能を果たすと評価されてきたものの、特段商品化等は考えていなかった。しかし、昨今の地球温暖化に対して社会的な関心が高まるにつれ、緑化マットなどの新しい産業分野が出来つつあった。そうした中、東京の造園設計家から「自然に近い植生マットを作ってみないか」というアドバイスを得て、在来種シードバンク機能を活用した野の花マットの開発をスタートさせた。

製品開発のポイントは明確だった。一般的な緑化マットは椰子ガラなどを基盤材として利用しているが、海外から輸入されてくる椰子ガラが本当に環境にいいのか、疑問も感じていた。そこで、野の花マットは根だけでマット化することを目指し、2002年の独自研究開始から、二年間で製品化に目処を立てた。製品化に成功すると、開発を勧めた東京の造園設計家などと共同でマット化の製法特許を取得、さらに地元紙とテレビなどのメディア媒体に注目され、NHKの全国版でも放送されるようになった。

営業方法は、至ってシンプルだ。芝より10倍近い値段のする「野の花マット」は、緑化への関心の高い都心を中心にニーズがある。そこで、同社は都内の設計事務所や役所に直接ダイレクトメールを郵送する他はホームページによる営業方法しかとっていない。それでも「野の花マット」に価値を感じたデザイナーが建築物に取り入れ着实に実績を伸ばしている。これは実績の積み重ねやメディアによる周知に加え、誰が顧客であるかを見極めていることも大きいだろう。

成功のポイントとこれから

同社の成功ポイントは、国内最大の緑化マット市場である東京で求められる緑化マットを製品化したところにある。自然の少ない東京では、芝やセダムなどによる単



野の花マット生産農場

一緑化よりも里山を連想させる多種類の野草に癒しを感じる人が増えている。

また、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議の影響を受け、生物多様性への取組みを模索する企業も急増している。「野の花マット」は、目に見える形の生物多様性への取組みとして都心の生活に受け入れられているとともに、企業から大きな関心を寄せられている。

今後は、屋上だけでなく壁面にも多種多様な日本在来の植物を育成できるようにすることで、温暖

化対策を進めると共に、立体的な生物多様性空間を創出することを目指している。

eco japan cup とは

環境ビジネスウィメン、環境省、総務省、日本政策投資銀行、三井住友銀行が主催して、産官民の協働事業として行う「エコビジネスの芽を見つけ、育てる」コンテストのこと。

「日本発、世界の経済をエコ化する!」をコンセプトに、ビジネス、カルチャー、ライフスタイル、ポリシーの4部門で、個人、企業等を対象にそれぞれ広くアイデアを募るものである。

<環境ビジネスのすすめ ~仲田茂司代表取締役からの一言~>

在来種一筋50年。大形鳥類が都市に帰ってくるような、生物多様性空間づくりを目指していきたいです。

<企業データ>

有限会社仲田種苗園
所在地：福島県石川郡石川町中野字寺内15-5
法人設立：1985年、資本金：1,000万円
電話番号：0247-26-7880
<http://www.eco-plants.net/>

